

FDルーブリックの策定の運用（試行）について

岩野 摩耶（山口大学 教育・学生支援機構 教学マネジメント室 講師）

竹中 喜一（近畿大学 IR・教育支援センター 准教授）

2025年8月1日（金）

第1回大学等の質保証人材育成セミナー

自己紹介

岩野 摩耶

- 国立学校法人山口大学 講師
教育・学生支援機構 教学マネジメント室 / ひと・まち・未来共創学環 /
大学院人間社会科学研究科共創科学専攻
- 大学卒業後は民間企業に就職し、大学職員歴を経て現職

【最近の研究】

- 大学教員の教育力向上のためのアセスメント基準と教育力FDマップの策定
- 口コミ情報の分析、口コミ情報の自動分類のシステム構築
例．顧客の不満情報からの改善情報抽出、アンケートの自由記述からカテゴリーごとに情報を分類

自己紹介

竹中 喜一

- 近畿大学 IR・教育支援センター 准教授
山梨県立大学 特任准教授（教学マネジメントアドバイザー）
大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員長
- 大学卒業後は民間企業に就職し、大学職員歴を経て現職

【最近の研究】

- 全国のFD組織の実情に関する研究
- 組織開発につながるFD・SDのあり方に関する実践研究

本日の内容

1. FDの定義と現状
2. FDルーブリックの策定
3. FDの実施状況に関するワーク
4. 大学における事例
 - ・山口大学
 - ・近畿大学

本日の内容

1. FDの定義と現状
2. FDルーブリックの策定
3. FDの実施状況に関するワーク
4. 大学における事例
 - ・山口大学
 - ・近畿大学

FDの定義

「**教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称**。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」

（中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」答申（平成17年1月））

「FD…は知識イコール専門分野を素材に成り立つ学問の府としての大学制度の理念・目的・役割を実現するために必要な「教授団の資質改善」または「教授団の資質開発」を意味する。」

「FDは一般には広義と狭義の解釈が成り立つ。」

広義には、広く研究、教育、社会的サービス、管理運営の各側面の機能の開発であり、それらを包括する組織体と教授職の両方の自己点検・評価を含む。

狭義のFDは主に諸機能の中の教育に焦点を合わせる。…教育に関するFDは総論的には教育の規範構造、内容（専門教育と教養教育）、カリキュラム、技術などに関する教授団の資質の改善を意味する。」

（有本章著『大学教授職とFD』（平成17年 東信堂））

「…FDの焦点を定める必要がある。FDを当面、…大学の機能不全を克服するための大学教員の資質開発に焦点を置くならば、専門知識の細分化によって機能不全になりつつある大学教育に焦点を結ばざるを得ない。…すなわち、FDの焦点の一つは、「学識論」の展開であり、学問の統合の探求である。」

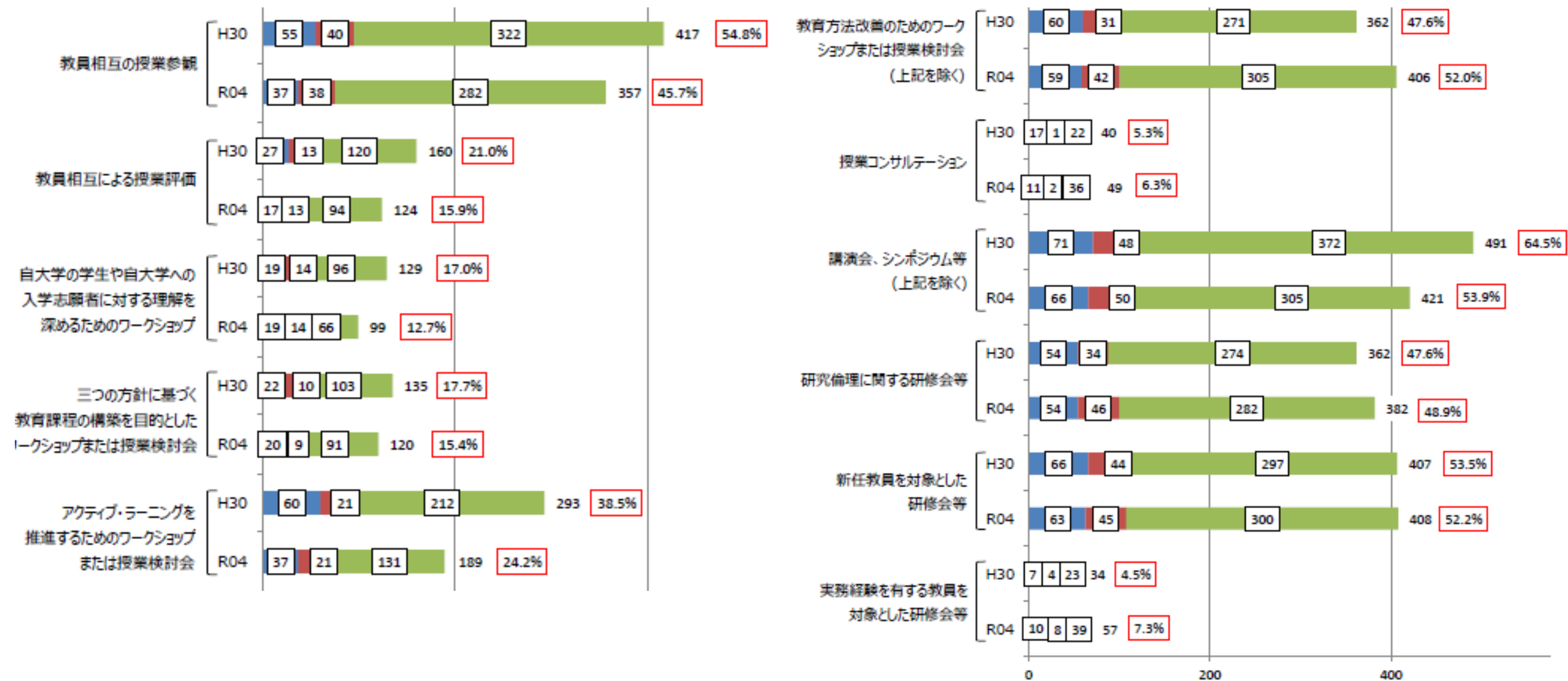
「FDには、次のような活動がある…」

（1）大学の理念・目標を理解するワークショップ、（2）ベテラン教員による新任教員への指導、（3）教員の教育技法（学習理論、授業法、討論法、学業評価法、教育機器利用法、メディア・リテラシーの習熟）を改善するための支援プログラム、（4）カリキュラム開発、（5）学習支援（履修指導）システムの開発、（6）教育制度の理解（学校教育法、大学設置基準、学則、履修規則、単位制度f度）、（7）アセスメント（学生による授業評価、同僚教員による教授法評価、教員の諸活動の定期的評価）、（8）教育優秀教員の表彰、（9）教員の研究支援、（10）研究と教員の調和を図るシステムと学内組織の構築の研究、（11）大学の管理運営と教授会権限の関係についての理解、（12）大学教員の倫理規程と社会的責任の周知、（13）自己点検・評価活動とその活用、

上述を見ればわかるように、FDは大学教員個人の資質開発を基礎とするが、必然的に各教員個人を超えて、教授団としての取組みを必要とする。その意味で、FDを「教授団資質開発」といわなければならない。」

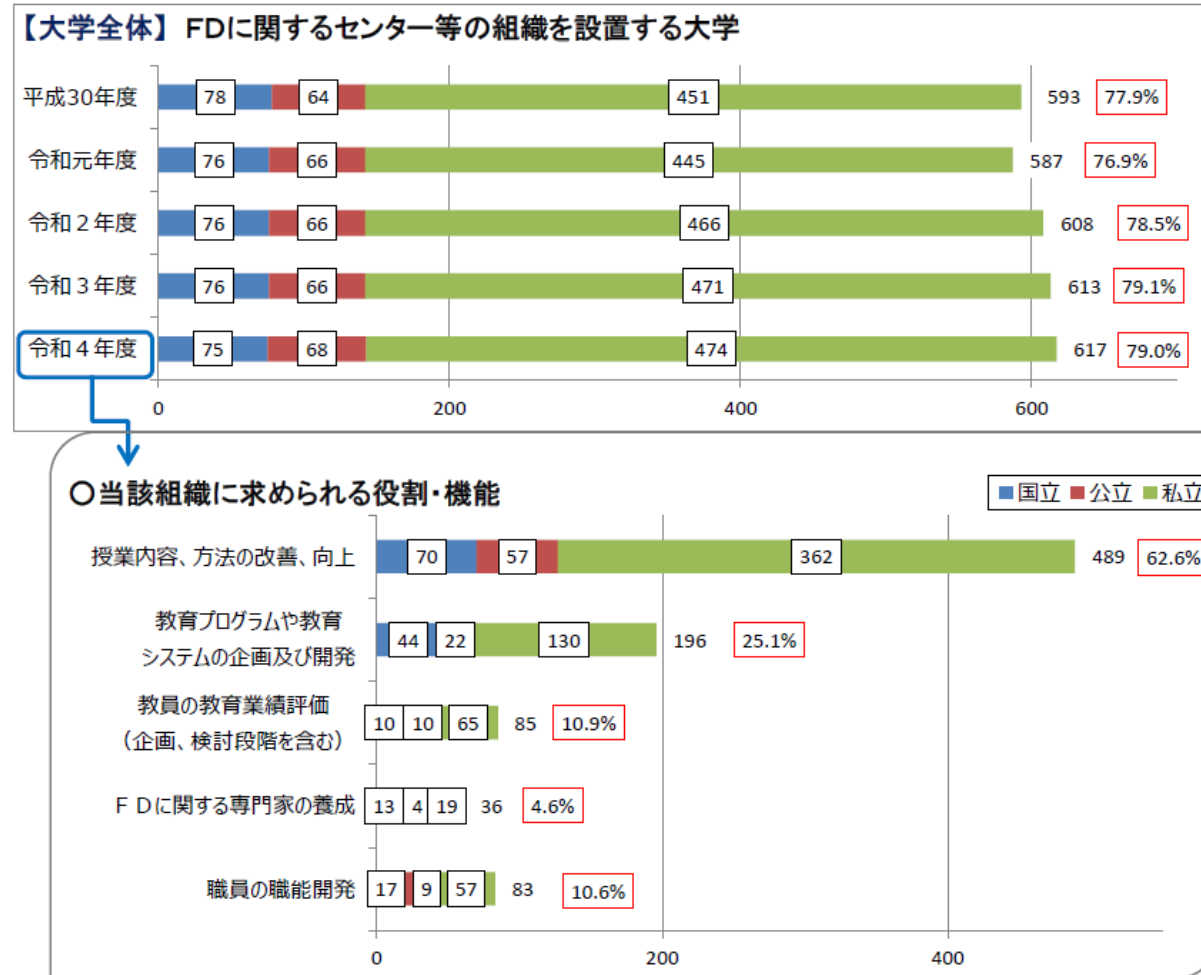
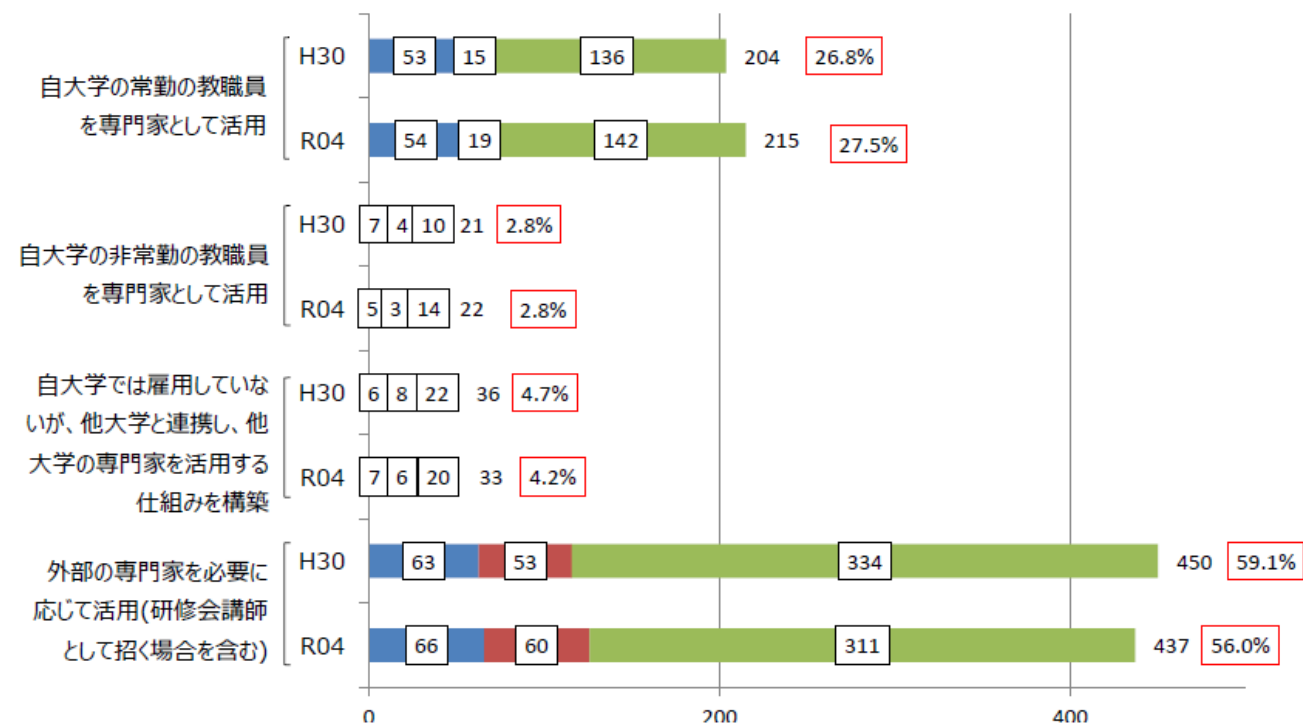
（絹川正吉、館昭編著『学士課程教育の改革』（平成16年 東信堂））

FDの現状①（具体的な内容）



（大学における教育内容等の改革状況について（令和4年度）より）

FDの現状②（専門家の活用）



本日の内容

1. FDの定義と現状
2. FDルーブリックの策定
3. FDの実施状況に関するワーク
4. 大学における事例
 - ・山口大学
 - ・近畿大学

課題意識

各大学や大学コンソーシアム等で、授業デザイン、教授法、学生支援、ICTの活用、大学運営など様々なFDが実施され、動画も多数公開されている

一方

- ✓教員が自分自身の能力を確認するための指標がない
- ✓どの段階で、どのFDを受講したらいいかの基準がない
- ✓各大学に必ずしもFDを管轄する担当部署・担当者がいるわけではない
- ✓FDの企画者が、どのようなFDを設定するか迷う可能性がある



受講するFDは教員の個人的な感覚により選択されることが多い

：どのFDに参加して良いか分からない

課題意識に対する解決策



教員が自己の能力を確認できる指標を作成し、
公開されているFD（動画）や書籍を
体系的に整理できれば、
みんなが使える「**FDルーブリック**」がつかれるのではないか

様々なFD情報①

ドラマ仕立ての動画教材『シリーズ 大学の授業を極める』

(https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/support_e_learning/2021/04/gakushatei.html)

1. 授業設計

1 シラバスってどんな役割があるの？



2 授業って何から設計するの？



3 授業のスケジュールはどうやって決めたらいい？



4 授業を改善するためには？



(大阪大学Webサイトより)

旧 関西地区FD連絡協議会が作成したドラマ仕立ての動画教材『シリーズ 大学の授業を極める』。この教材では、授業に悩みを抱える大学教員に対して、大学教育学の専門家がわかりやすく授業の質を高めるポイントを解説していきます。新任教員から、授業を見直したい中堅・ベテラン教員まで、そしてこれから大学教員を目指す大学院生の皆様にも楽しみながら学んでいただけます。

本シリーズは、4つのテーマ（授業設計、講義法、アクティブラーニング、学習評価）で構成され、各4本の動画ならびに動画のハンドアウト（PDF）が用意されています。

また参考教材として、玉川大学出版部で発行されている書籍『シリーズ 大学の教授法』から、本動画教材に関連しているものの内容を抜粋したスライド教材

（PowerPoint／PDF）も用意されています。個人での学習教材として、FD研修での教材として、幅広く学習にご活用ください。

様々なFD情報②

『シリーズ 大学の教授法』（玉川大学出版部）

(<https://www.tamagawa-up.jp/search/s7312.html>)



授業設計

定価 2,640円（税込）

中島 英博 編著



講義法

定価 2,640円（税込）

佐藤 浩章 編著



アクティブラーニング

定価 2,640円（税込）

中井 俊樹 編著



学習評価

定価 2,640円（税込）

中島 英博 編著



研究指導

定価 2,640円（税込）

近田 政博 編著



授業改善

定価 2,640円（税込）

佐藤 浩章 編著
栗田 佳代子 編著

様々なFD情報③

愛媛大学教育企画室動画教材・愛媛大学FD・SDチャンネル など
(<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/movie/>) ・ (https://www.youtube.com/@aidai_fdsd/videos)

愛媛大学教育企画室では能力開発支援の一環として、最新情報を動画でも発信しています。

動画検索

担当教員 指定なし

カテゴリ 指定なし

【カテゴリ】
FD / IR / SD
/ おすすめ動画

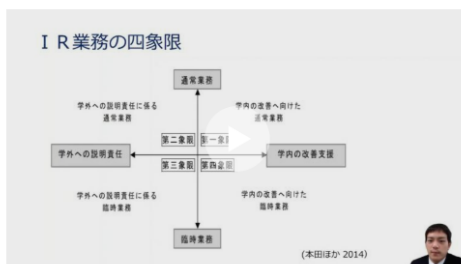
おすすめ動画



【FD動画】シンク・ペア・シェア

担当教員 中井 俊樹

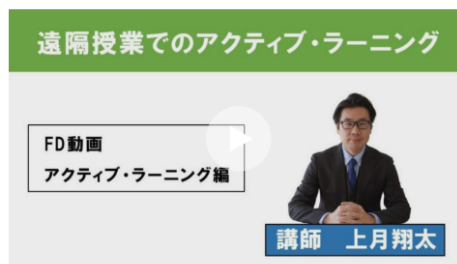
カテゴリ FD



【SD動画】大学のIR（Institutional Research）入門① IRの定義と意義

担当教員 竹中 喜一

カテゴリ IR



【FD動画】遠隔授業でのアクティブ・ラーニング

担当教員 上月 翔太

カテゴリ FD

（YouTube Webサイトより）

【愛媛大学FD・SDチャンネル】

高等教育機関における日々の授業改善や業務改善に役立つ研修動画を提供します。

愛媛大学の教職員が提供する研修以外に、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）や外部講師が実施した研修についても公開していきますので、高等教育機関にお勤めの方、FD・SDに関心のある方はぜひチャンネル登録をお願いします！

【愛大学習チャンネル】

愛媛大学教育企画室が運営する学習支援チャンネルです。大学生の「学び」を支援するコンテンツを投稿していきます。

様々なFD情報④

東大FD・UTokyo

(<https://utokyofd.com/about/us/>) ・ (<https://www.coursera.org/learn/interactive-teaching>)

(東大FD Webサイトより)

東京大学大学総合教育研究センターにおけるファカルティ・ディベロップメント（FD）の取り組みは、2011年の「東京大学の行動シナリオ FOREST2015」をきっかけに発足しました。本シナリオにおいて定められた「教員の職能開発（FD）の実施方針の策定と効果的な推進」に基づき、2013年に「東京大学フューチャーファカルティプログラム」（東大FFP）がスタートしました。

その後、学内向けのプログラムのみならず、MOOCを含むオンライン講座の提供や各種ワークショップの開催などを通じて、プログラムの質的・量的な拡充を図ってまいりました。また、学内外の大学院生、大学教職員、さらには初等中等教育の先生方、企業の人材育成部門の担当者など、「教える」に関わるあらゆる人々のニーズに応えるべく、試行錯誤をつづけています。2022年度より、英語版プログラムの提供も本格的に開始しました。

例. インタラクティブ・ティーチング



メニュー 目的別に探す お問い合わせ アクセス

学習内容

すべて	第1週 インタラクティブ・ティーチングとは何か「アクティブ・ラーニングについて知ろう」	第2週 アクティブ・ラーニングの技法	第3週 学習の科学	第4週 90分のクラスをデザインしよう	第5週 もっと使えるシラバスを書こう
第6週 学びを促す評価	第7週 キャリアパスを考える1～大学教員としてのあり方～	第8週 キャリアパスを考える2 ポートフォリオの利用			

様々なFD情報⑤

東北大学PFFP、大学コンソーシアム京都など広く公募されるFD

(<https://www.cpd.ihe.tohoku.ac.jp/news/pffp2025/>) ・ (<https://www.consortium.or.jp/>)

HOME / News / 受講者募集

2025.05.20 [受講者募集](#)

2025年度 東北大学PFFP 受講者募集



大学教員を目指す全国の大学院生ポスドク新任教員のみなさんへ

2025年度

東北大学PFFP 大学教員準備プログラム

Tohoku University Preparing Future Faculty Program

受講者募集 2025年5月20日～ **6月30日** (月)

2025年度 東北大学PFFP 募集要項



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

日本語

English

한국어

简体中文

繁體中文

文字サイズ 小 **中** 大



キャンパスプラザ京都 の利用案内はこちら
利用時間 9:00～21:30 (月曜休館)



検索

[お問い合わせ](#)

[交通アクセス](#)

大学コンソーシアム京都について

事業内容について

イベント・行事

各種資料・調査データ

FD

2024年度 FD合同研修プログラム・テーマ別研修 参加者数

プログラム	開催日	参加者数
FDの基礎知識	2024年9月3日(火)～2025年3月末	153
社会への入口としての大学教育～PBL 教育の可能性～	9月19日(木)	27
生成 AI 技術を導入した大学授業の最前線レポート	10月17日(木)	21
学生と教員の協働による初年次科目設計/運営体制と学生ファシリテータ制度	12月14日(土)	10
科研費の取り方-申請書作成のポイント-	2025年1月23日(木)	39

課題意識に対する解決策

教員が自己の能力を確認できる指標を作成し、
公開されているFD（動画）や書籍を体系的に整理できれば、
みんなが使える「**FDルーブリック**」が作れるのではないか

⇒ なかなかうまくいかない



理由は

- 内容が複雑に絡みあう場合が多い（一概に若手のみなど、内容を切り分けられない）
 - 教員の立場（教員、部局長などの職位があるか否か等）
 - 文脈依存のコンテンツは作れないこと
- etc.

ループリックを考える

教員が自らの教育力を客観的に把握するための**指標の確立**

→ **アセスメント基準＝ループリックの策定**

種別	内容	共有化
A. 専門的、 技術的な技能	授業デザインや教授法、ICTやDX等のシステム活用、 学修指導や学生指導、教育行政（設置基準等の 法令、高等教育政策、免許資格）、情報セキュリティ、 データリテラシー等 ※学問分野による専門性も存在 （看護学等）	ある程度の一般性があり他大学と共 有可能
B. その大学の固有の 文脈に関する技能	学生の学修成果、生活実態、学則、教育システム、 自己点検評価や認証評価等	自大学のみで通用する しくみに関するものが多く、他大学と共 有不可能

一般的に共通する「**授業**」に着目をした

FDループバック策定に際しての着目点

- どう整理する？ …教授法？授業の設計？ etc.

⇒ 全員が知る必要があることはなにか？

例. 大人数の講義法は必要があれば知ればいいのかもしい

But！ DPやCPとの関連は全員が知る必要があるのではないかな etc.

⇒ 授業の設計を考える必要がある

- まずは到達目標を考え、そこから授業を設計する
- 全体のDPを理解しないと、授業が設計できない …はず

書籍や動画を整理し、授業の構成要素・フェーズを考える

授業を設計する時、
どうしているかを考える
(フェーズには何があるか、
フェーズごとの要素は何か)

ループブリックの構造

カテゴリー	観点		科目レベル(授業全体)/ 授業レベル(1回の授業)	概要
設計	「全体目標と カリキュラム (プロセス) の把握」	ディプロマ・ ポリシー (DP)	科目レベル	授業科目のカリキュラム上の位置づけや役割を理解した上での授業設計や到達目標の設定が重要となり、特に担当する授業科目の前後に開講される科目との関係の調整を行うことが重要になる
		カリキュラム・ ポリシー (CP)	科目レベル	
	学修目標とその評価方法		科目レベル	設計した授業の到達目標に対して学生の達成度を的確に把握する必要がある ※学修成果の把握は、点検・評価にも結び付くため、授業設計当初に設定し、必要に応じて分析を行い、授業の改善に活用する
	授業設計（シラバス作成）		科目レベル・授業レベル	所属する大学のシラバスの作成要領に従って作成するが、法令、学則等の根拠を理解した上で記載することが重要である
実施	学習指導法		授業レベル	多様な教授法が存在するが、授業の到達目標や内容に応じて、適切な手法を選択できる必要がある ※受講している学生の状況に応じて、改善を行う必要がある
	学修状況の把握		授業レベル	授業期間中に学修状況を把握する（モニタリングの位置づけ）ことであり、授業期間中に改善を行うことが可能となる
点検・評価	授業の見直し		科目レベル	学生の声としてアンケートや成績評価の分析等を活用し、指摘事項や授業全体を改善することである

授業におけるPDCAサイクル

科目レベルのPDCA

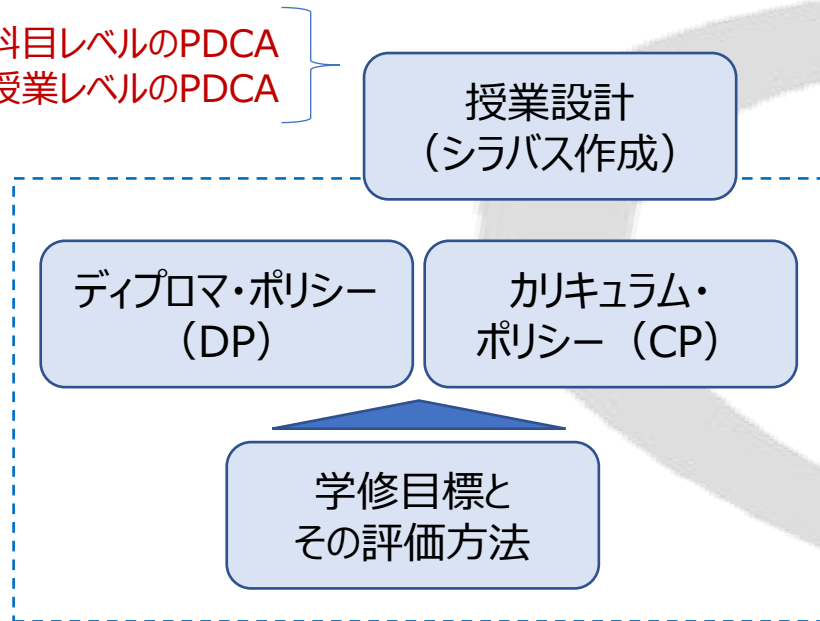


Plan 設計

Do 実施

Check・Action 点検・評価

科目レベルのPDCA
授業レベルのPDCA



授業レベルのPDCA

授業の見直し

様々なFDマップ①

『大学・短大で FDに携わる人の FDマップと利用』
 (国立教育政策研究所FDer研究会編 2009年3月)
 (<https://www.nier.go.jp/koutou/projects/fder/index.html>)

レベル フェーズ	ミクロ 個々の教員 授業・教授法			ミドル 教務委員 カリキュラム・プログラム			マクロ 管理者 組織の教育環境・教育制度		
	目標	方法	評価	目標	方法	評価	目標	方法	評価
I.導入 (気づく・わかる)									
II.基本 (実践できる)									
III.応用 (開発・報告できる)									
IV.支援 (教えられる)									

(国立教育政策研究所高等教育研究部Webサイトより)

主として、大学教育センター等においてFDを専門的に担当する教職員、FD委員会の委員、管理者など、FDを担当する大学関係者に、何がFDであるのか、FDの目標は何か、FDの効果的な実施方法はどのようなものか、FDの成果は何によって明らかになるのか等について一定の枠組みを提示し、関係者に役立てていただくことにあります。

FD マップ

	ミクロ・レベル		
	目的：個々の教員による授業・教授法の開発		
	目標	実施方法	評価指標の例
フェーズⅠ： 導入 (わかる)	① 教員の業務として授業の運営及び改善があることを説明することができる。 ② 所属機関 (大学や学部など) の教育目標を説明することができる。 ③ 所属機関の授業やカリキュラムに関する基本的な事項や特徴を説明することができる。 ④ 所属機関の学生・教職員の特徴を説明することができる。 ⑤ 所属機関における教育・学習支援のための組織・仕組みを説明することができる。	1. オリエンテーション 2. ガイダンス 3. 講演会 4. メディア学習 (e ラーニング、ビデオ・DVD 学習) 5. ちらし、グッズ、ポスター、カレンダー 6. ニュースレター、メールマガジン、WEB サイト 7. メーリングリスト 8. 文獻リスト 9. 授業の手引き	1. プログラムの参加者・利用者数 (①～⑤) 2. プログラムの参加者・利用者の満足度、目標の到達度 (①～⑤) 3. e ラーニング教材のアクセス数 (①～⑤) 4. メーリングリストの登録者・利用者数 (①～⑤) 5. WEB サイトのアクセス数 (①～⑤)
フェーズⅡ： 基本 (実践できる)	① 授業を運営するための基本的な方法について説明することができる。 ② 所属機関や学習者のニーズを把握することができる。 ③ ②をもとに、担当する科目に連した目的・目標を設定することができる。 ④ 授業を運営するための基本的な方法をもとに、担当する科目の運営計画を作成することができる。 ⑤ 教材を作成するための基本的な方法を知り、これをもとに担当する科目で使用する教材を作成することができる。 ⑥ 授業を実施するための基本的なスキルを知り、これをもとに授業を実施することができる。 ⑦ 成績を評価するための基本的な方法を知り、これをもとに成績を評価することができる。 ⑧ 授業を評価するための基本的な方法を知り、これをもとに授業を評価することができる。	1. ワークショップ 2. セミナー 3. 授業公開プログラム 4. 模擬授業 5. コンサルテーション (個別、グループ) 6. 授業日誌のためのフォーマットの提供 7. メディア学習 (e ラーニング、ビデオ・DVD 学習) 8. 文獻リスト 9. 授業の手引き	1. プログラムの参加者・利用者数 (①～⑧) 2. プログラムの参加者・利用者の満足度、目標の到達度 (①～⑧) 3. 同僚・先輩からみた行動の変容度 (①～⑧) 4. e ラーニング教材のアクセス数 (①～⑧) 5. 学生による授業評価における満足度、目標の達成度、授業の改善度 (①～⑧) 6. シラバスにおける目的・目標、授業計画、成績評価の方法に關

様々なFDマップ②

『愛媛大学全学FDマップ（教員能力開発体系図）』 (https://web.opar.ehime-u.ac.jp/activity/teacher_ability/)

ミクロレベル（授業の改善）

フェーズ	プログラム・サービス名	目的	内容
フェーズⅠ (導入) 気づく・わかる	新任教職員研修（年1回）	本学の教育に関する基礎的知識を習得する。	本学の教育目標、共通教育制度、単位制度
	愛媛大学教育改革シンポジウム（年1回）	身近な成功事例から授業・カリキュラム改革に関する知識を獲得する。	学内の授業・カリキュラム改革の成功事例
フェーズⅡ (基本) 実践できる	授業デザインワークショップ（年1回）	授業デザインの基礎的知識・スキルを習得する。	アイスブレーキング、シラバス作成法、多様な授業技法、学習評価法、模擬授業実施法
	FD/SDスキルアップ講座（年25講座程度）	授業実施に必要な特定のスキルの向上を図る。	発声法、講義法、課題解決型授業法、メディア教材作成法等
	SPOD関連講座（フォーラム含む）	授業実施に必要な特定のスキルの向上を図る。	発声法、講義法、課題解決型授業法、メディア教材作成法等
	授業コンサルティング（随時）	授業をコンサルタントとともに振り返り、客観的に分析し、解決策をともに考える。	授業において学生の学習を促進する要素、学習を促進させない要素
フェーズⅢ	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（年2回）	教育哲学、教育方法などを反省的に振り返り、それらに一貫性を持たせる。	教育哲学、教育方法、証拠の振り返り
		授業実践を研究として客観的に検証し、その成	

（愛媛大学教育企画室Webサイトより）

教育企画室では、豊富で多様な教員向け能力開発プログラムやサービスを提供しています。こうした各種プログラム・サービスは、全学能力開発体系図（FDマップ）に整理されています。各教員は自らのキャリアや能力にあわせて、必要な内容を必要な段階で学習することが可能です。本学のFDマップは、国立教育政策研究所FDER研究会が作成したFDマップの枠組みを使用しています。

（１）授業の改善

個々の授業をより良いものにするための取組。具体的には、授業評価アンケート、教員相互の授業参観、授業コンサルティング、教授法に関する講演会、シンポジウム、ワークショップ、セミナーなどがこれにあたる。

（２）カリキュラムの改善

学部、学科、課程、コース等において提供されるカリキュラムや教育プログラムをより良いものにするための取組。具体的には、カリキュラム・ポリシーの制定、授業科目の新設・改廃、授業科目間の関連性の検討、各種アンケート、カリキュラムの現状診断・評価・開発、またこれらに関わるセミナーなどがこれにあたる。

（３）組織の整備・改革

教育・学生支援に関わる組織の構造や組織間の関係をより機能的なものにするための取組。具体的には、教育・学生支援に関わる委員会の設置・改廃、各委員会の役割の検討、組織の現状診断・評価・再編、組織間での連携協力、管理職等を対象とした各種研修会がこれにあたる。

様々なFDマップ③

『日本赤十字広島看護大学FDマップ』

(<https://www.jrchcn.ac.jp/site/root/9064.html>)

		初級	中級	上級	組織的・学術的なリーダー	振り返り 評価時期・方法	FD研修
		新任の段階	自立してできる段階	支援・指導できる段階	組織的活動ができる段階		
I 大学組織の理解	共通	■ 本学の歴史について理解できる ■ 学園本部・本学の組織体制について理解できる ■ 学園本部・本学の精神と教育理念について理解できる ■ 学園本部・本学の運営方針について理解できる（中期目標、計画など） ■ 組織体制上のルールを理解できる				○自己評価 時期：常に必要時 ○教員相互評価 時期：年度末 方法：自己と評価者の相互評価（ティーチング・ポートフォリオ（以下TP）チャートを含む）	○新任教員研修（毎年開催） ・大学組織の理解・大学の規定 ○TPチャート作成研修 ・外部講師によるTPの基本とTPチャート作成研修 ・学内講師によるTPの基本とTPチャート作成研修 ・オンライン研修動画を活用したTPチャート作成研修
	段階別	I-1. 委員会とその役割を知る I-2. 意志決定機関について理解できる I-3. 場や状況に応じて所属する組織を意識した立場・役割をとる必要性を理解できる。 I-4. 本学の大学運営に関する現状と課題を理解できる I-5. 組織が発展するための情報交換に参加できる	I-1. 委員会での役割を果たすことができる I-2. 意志決定機関に意見を伝えることができる I-3. 場や状況に応じて所属する組織を意識した立場・役割をとることができる I-4. 自身の立場や役割に応じて、大学運営に関する情報共有ができる I-5. 組織が発展するための情報交換の場で意見をいうことができる	I-1. 委員会でのリーダーシップをとることができる I-2. 意志決定機関に意見を伝えることができる I-3. 場や状況に応じて所属する組織を意識した立場・役割をとることについて他者に助言できる I-4. 大学運営に、自身の立場や役割に応じて参画できる I-5. 組織が発展するための情報交換の場で意見をまとめることができる	I-1. 委員会を組織できる I-2. 意志決定に関与できる I-3. 組織体制上のルールを導くことができる I-4. 大学運営における効果的・効果的な情報共有システムを作ることができる I-5. 組織が情報交換できる環境を整えることができる	※評価者：教授は学長、准教授・講師は副学長、助教・助手は学部長が評価する	
II 赤十字の原則を活用する力	共通	■ 施設内外の赤十字の諸活動に積極的に参画できる				○自己評価 時期：常に必要時 ○教員相互評価 時期：年度末 方法：自己と評価者の相互評価（ティーチング・ポートフォリオ（以下TP）チャートを含む）	○新任教員研修 赤十字について（毎年開催） ○赤十字救急法基礎講習（毎年開催） ○赤十字救急法義成講習（毎年開催） ○関連する研修会の開催
	段階別	II-1. 赤十字の基本原則と教育活動の関連性を理解できる II-2. 赤十字の基本原則を教育活動と関連付けて考えることができる II-3. 赤十字の看護職育成の目的と大学の教育方針の関連が理解できる II-4. 赤十字の理念に基づいた看護について、学生の学習実践モデルになる必要性を理解できる	II-1. 赤十字の基本原則に基づいた教育活動が実践できる II-2. 赤十字の看護職育成の目的を教育活動と関連付けて考えることができる II-3. 赤十字の理念に基づいた看護について自分のことばで学生や同僚に語るができる II-4. 学生や後進の教員に対し、施設内外の赤十字の諸活動への参画を呼び掛けることができる	II-1. 赤十字の基本原則に基づいた教育活動が実践できる II-2. 赤十字の看護職育成の目的を教育活動と関連付け、教員に指導できる II-3. 赤十字の理念に基づいた看護について教育活動の評価と改善を推進することができる II-4. 学生や教員に対し、施設内外赤十字の諸活動への参画を呼び掛けることができる	II-1. 赤十字の基本原則に基づいた大学の経営方針を推進できる II-2. 赤十字の理念である人道の具現化に向けた看護教育を推進できる II-3. 赤十字事業の推進者として、学生や教職員と協力して地域社会に貢献できる II-4. 学生や教職員が、施設内外赤十字の諸活動に参画できる体制をつくることができる	※評価者：教授は学長、准教授・講師は副学長、助教・助手は学部長が評価する	

（大学基準協会Webサイトより）

【大学の長所・特色】

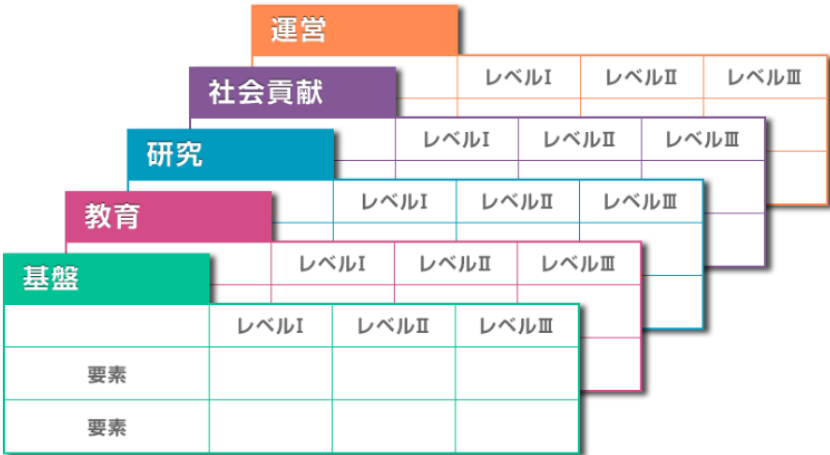
専任教員に必要なコンピテンシーを教員歴に応じて4つの段階に区分し、到達度を明示した「FDマップ」を独自に作成しており、コンピテンシーに大学の理念・目的に即したヒューマンケアリングを加えるなどの工夫を講じている。また、「FDマップ」に基づき、セメスターごとに教員と教員組織の長が相互に評価し、ティーチング・ポートフォリオに集約することで教員による教育研究活動の振り返りに活用していることは評価できる。

＜ここがポイント＞

- ✓「FDマップ」では、専任教員に必要なコンピテンシー10項目を、教員歴に応じて4つの段階に区分しており、教員に必要な資質・能力を明確に設定している。
- ✓コンピテンシーは大学運営に関する能力のほか、赤十字の理念の活用という大学の理念・目的に資する項目を設定し、大学が掲げるヒューマンケアリングへの理解を深めることで、各教員が行う教育にも反映できるよう工夫している。
- ✓「FDマップ」の内容に基づき、セメスターごとに自己評価と教員組織の長による相互評価を実施し、その内容をティーチング・ポートフォリオにまとめることで、教員の教育研究活動の振り返りに活用している。

様々なFDマップ④

『看護学教育におけるFDマザーマップ』（千葉大学） (<https://fd.np-portal.com/fd/>)



1) 基盤

基盤			
要素	レベルI [知る]	レベルII [自立してできる]	レベルIII [支援・指導、拡大できる]
1. 看護系大学教員としての基礎力			
看護学の本質的理解	基盤1-1.1 ①看護学が、看護実践の根拠の追究、看護の価値の創造およびその発展を目指す科学であることを知る ②諸科学との関連において、看護学独自の意義や役割を知る	基盤1-1.2 ①看護学が、看護実践の根拠の追究、看護の価値の創造およびその発展を目指す科学であることをふまえて、教員活動を展開できる ②看護学独自の意義や役割を自覚しながら、教員活動を展開できる	基盤1-1.3 ①看護学が、看護実践の根拠の追究、看護の価値の創造およびその発展を目指す科学であることをふまえて、他の教員を支援できる ②看護学独自の意義や役割を自覚しながら、他の教員を支援できる
看護学に対する興味・関心	基盤1-2.1 ①自身の看護学に対する興味・関心が、教員活動のあり方に影響を及ぼすことを知る	基盤1-2.2 ①教員活動を通じ、看護学に対する興味・関心を深化・発展させ続けることができる	基盤1-2.3 ①教員活動を通じ、看護学に対する興味・関心を深化・発展させ続ける方向で、他の教員を支援できる
教育活動と研究活動のバランス	基盤1-3.1 ①看護学に関する教育と研究が看護系大学教員としての主要な責務であることを理解し、教育と研究に費やす時間の配分を現実的に考える必要性を知る	基盤1-3.2 ①教育と研究に費やす時間の配分を現実的に検討し、バランスのよい教員活動を積極的に展開することができる	基盤1-3.3 ①教育と研究のバランスのよい教員活動を展開する環境を組織的に整え、他の教員を支援できる
教員活動に対する自己評価	基盤1-4.1 ①自己の経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況等をふまえ、自己の教員活動を評価し改善する意義と方法について知る ②教員活動を持続的に改善するためのFDや学習資源の存在について知る	基盤1-4.2 ①自己の経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況等をふまえ、自己の教員活動を評価し改善することができる ②FDや学習資源を必要に応じて活用し、自身の教育活動を持続的に改善することができる	基盤1-4.3 ①経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況等をふまえた、教員活動の自己評価について、他の教員を支援できる ②FDプログラムや学習資源を組織的に整え、他の教員を支援できる
看護系大学教員としてのキャリア開発	基盤1-5.1 ①自己の経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況、ワークライフバランス等をふまえ、柔軟に自身の学習ニーズやキャリアパスを検討する必要性を知る	基盤1-5.2 ①自己の経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況、ワークライフバランス等をふまえ、柔軟に自身の学習ニーズやキャリアパスを検討し、実行に移すことができる	基盤1-5.3 ①経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況、ワークライフバランス等をふまえたキャリア開発について、他の教員を支援できる

FDルーブリック

FDルーブリック【2025年7月版】

カテゴリー	観点	科目レベル/ 授業レベル	説明	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	用語
設計	全体目標とカリキュラム（プロセス）の把握	科目レベル	科目を設計する上で、科目とディプロマ・ポリシーとのつながり（カリキュラム上の科目の位置づけや役割、科目の到達すべき目標）を把握・理解する必要がある。 ※カリキュラム上の位置づけや役割を理解するためには、DP、CP、カリキュラムマップやツリーなどを参照する必要がある。	科目に関わるDPを把握していない/科目を受け持ったことがない	各学部学科等が設定したDPに基づいて、科目・授業を設計している	科目に紐づいているDPと科目の到達目標との関係性を理解し、科目・授業を設計している	レベル2に加え、科目のカリキュラム上の位置づけを踏まえて、科目・授業を設計している	レベル3に加え、DPの達成度評価等のデータを活用し、科目・授業を設計している	※ディプロマ・ポリシー（DP）【卒業認定・学位授与の方針】：各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標（学修目標）ともなるもの。 ※カリキュラム・ポリシー（CP）【教育課程編成・実施の方針】：ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針。
設計	全体目標とカリキュラム（プロセス）の把握	科目レベル	科目を設計する上で、科目とカリキュラム上の位置づけや役割を把握・理解する必要がある、特に前後に開講される科目や関連する科目とのかわりが重要となる。前後の科目や関連する科目の内容把握とともに、それらの担当教員との協議を行うことで、より内容の充実が図られる。 ※前後の科目を把握・理解するためには、CP、カリキュラムマップやツリー、履修モデルなどを参照する必要がある。加えて前後や関連する科目の内容を把握するためには、当該科目のシラバスの精読に加え、それらの担当教員との協議が必要となる。 ※教員の協議方法として、教員同士で議論、内容調整、授業参観、ピアレビュー、コンサルティング	科目の前後に開講される科目の内容を把握していない/科目を受け持ったことがない	科目の前後に開講されるあるいは関連する科目の位置づけをカリキュラムポリシーやカリキュラムツリー等で把握し、科目・授業を設計している	レベル1に加え、科目の前後に開講されるあるいは関連する科目の内容をシラバス等で把握し、科目・授業を設計している	レベル2に加え、科目の前後に開講されるあるいは関連する科目の担当教員と協議した上で、科目・授業を設計している	レベル3に加え、科目の理解度（前後・関連科目を含む）等のデータを活用し、科目・授業を設計している	※カリキュラムツリー：カリキュラムにおける履修の体系性を示すため、授業科目相互の関係や学修の道筋等を表した図の総称。表現する形や内容により、履修系統図やコースツリー、カリキュラム・チャートとも表現される。学生と教職員がカリキュラム全体の構造を俯瞰できるようにすることで、体系的な教育課程の編成・実施や履修を促す意図を持つ。 ※カリキュラムマップ：学生が身に付けることが期待される知識・技能・態度等、学修目標として示される項目と授業科目との間の対応関係を示した図の総称。学生と教職員がカリキュラム全体の構造を俯瞰できるようにすることで、体系的な履修を促す意図を持つ。学修目標と各授業科目の対応に加え、授業科目の目標や、開講学期等と組

FDルーブリック

FDルーブリック【2025年7月版】

カテゴリー	観点	科目レベル/ 授業レベル	説明	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	用語
設計	全体目標とカリキュラム（プロセス）の把握	科目レベル	科目を設計する上で、科目とディプロマ・ポリシーとのつながり（カリキュラム上の位置づけや役割、目標）を把握・理解する必要がある。 ※カリキュラム上の位置づけを明確にするためには、DP、CP、カリキュラムを参照する必要がある。	科目に関わるDPを	各学部学科等が設	科目に紐づいている	レベル2に加え、科	レベル3に加え、DP	※ディプロマ・ポリシー（DP）〔卒業認定・
設計	全体目標とカリキュラム（プロセス）の把握	科目レベル	科目を設計する上で、カリキュラム上の位置づけや役割を把握・理解する必要がある。特に前後に関連する科目とのつながりや、前後の科目や関連する科目との関係性を把握・理解する必要がある。また、それらの担当教員と連携し、より内容の充実を図る必要がある。 ※前後の科目を把握・理解するためには、カリキュラムマップやツリー、履修シミュレーションなどを利用し、体系的な履修を促す意図を持つ。学修目標と各授業科目の対応に加え、授業科目の目標や、開講学期等と組						対応関係を示した図の秘称。学生と教職員がカリキュラム全体の構造を俯瞰できるようにすることで、体系的な履修を促す意図を持つ。学修目標と各授業科目の対応に加え、授業科目の目標や、開講学期等と組

「レベル0」「レベル1」「レベル2」「レベル3」「レベル4」の5つの段階に分けている

レベル0：経験ない
レベル1：1～2年で達成
レベル2：標準（全員達成が目標）
レベル3：理想
レベル4：組織的なサポートが必要（IR・議論の場等）

本日の内容

1. FDの定義と現状
2. FDルーブリックの策定
3. FDの実施状況に関するワーク
4. 大学における事例
 - ・山口大学
 - ・近畿大学

<ワーク> 自大学を考えてみる！

ループブックの7つの観点のFDを、自大学で実施しているか考え、整理してみましょう。

各観点、以下の4つの選択肢で回答してください。

1. 全学で実施
2. 一部の部局で実施
3. やっていない
4. わからない

※毎年テーマが変わる可能性がありますので、
2024年度に実施したFDで考えてみましょう。



本日の内容

1. FDの定義と現状
2. FDルーブリックの策定
3. FDの実施状況に関するワーク
4. 大学における事例
 - ・山口大学
 - ・近畿大学

山口大学

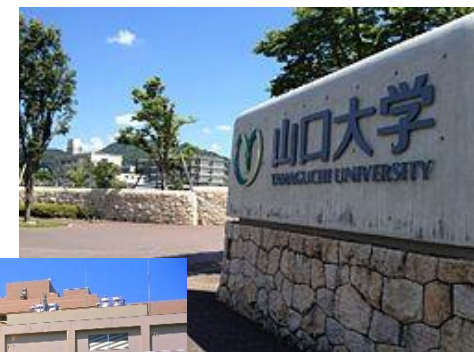
- 1815年に創設された私塾「山口講堂」が起源
(長州藩士「上田鳳陽」によって、創設)
- 明治・大正期の学制を経て、1949年に新制大学として創設
- 人文・教育・経済・理・医・工・農・共同獣医・国際総合科学・学環（2025年度）を有する総合大学
- 山口県山口市（大学・小学校等）、宇部市（大学）、光市（小学校）

[学生数（大学）]

- 学部：8,542名、大学院1,447名

[教職員（大学）]

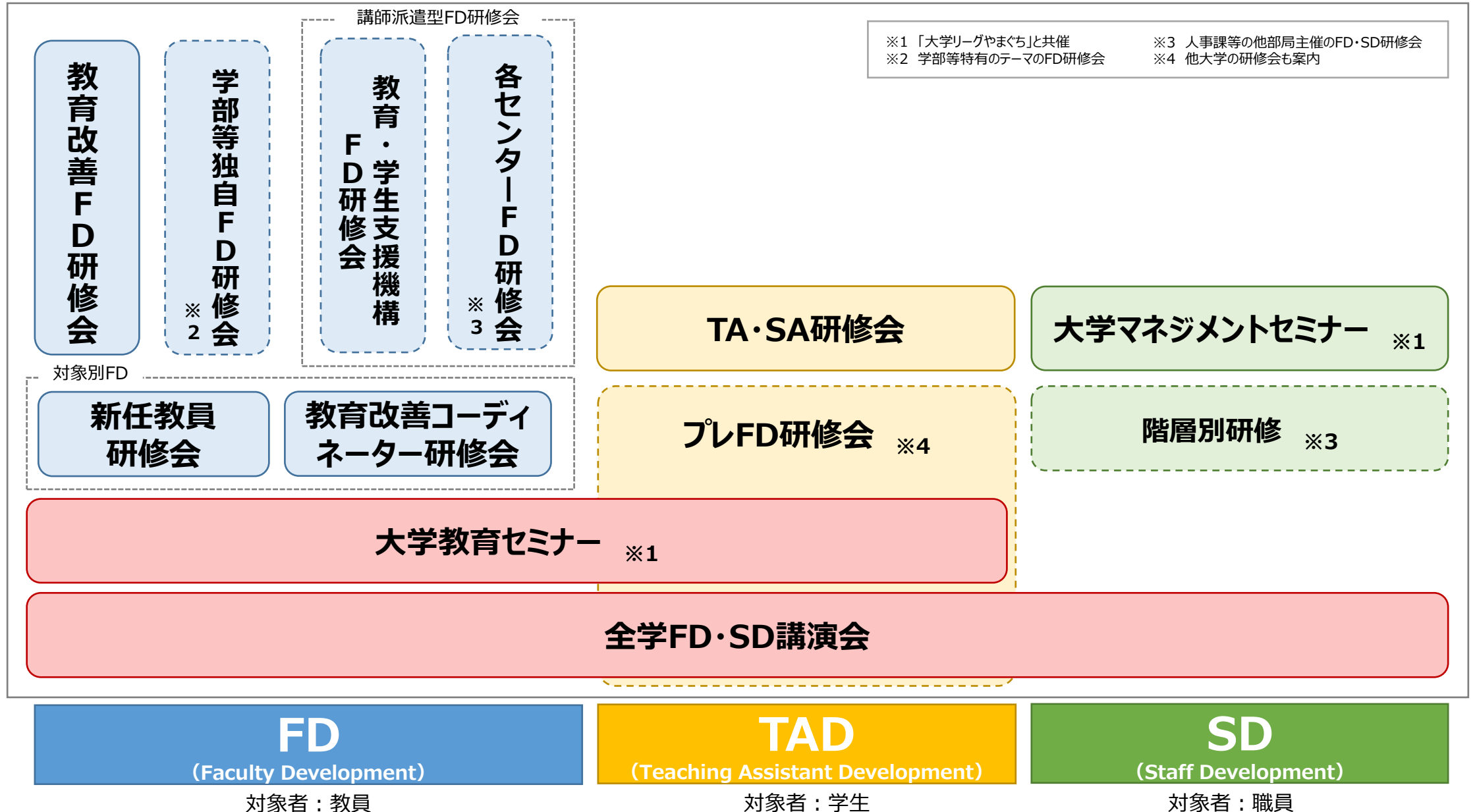
- 職員〔常勤職員〕：2,891名
役員9人、特命理事1人、教員1,033人、事務職員458人、
技術職員79人、医療技術職員273人、看護師等896人、その他職員142人



[教学マネジメント室] 教学に関する事項、FD/SDの担当、教学IR等

- **室長1名（兼務）、専任教員7名（5名は兼務）、職員4名（役職者1名、補佐員1名）**

山口大学のFD・SD



ループブリックの構造

カテゴリー	観点		科目レベル(授業全体)/ 授業レベル(1回の授業)	概要
設計	「全体目標と カリキュラム (プロセス) の把握」	①ディプロマ・ ポリシー (DP)	科目レベル	授業科目のカリキュラム上の位置づけや役割を理解した上での授業設計や到達目標の設定が重要となり、特に担当する授業科目の前後に開講される科目との関係の調整を行うことが重要になる
		②カリキュラム・ ポリシー (CP)	科目レベル	
	③学修目標とその評価方法		科目レベル	設計した授業の到達目標に対して学生の達成度を的確に把握する必要がある ※学修成果の把握は、点検・評価にも結び付くため、授業設計当初に設定し、必要に応じて分析を行い、授業の改善に活用する
	④授業設計 (シラバス作成)		科目レベル・授業レベル	所属する大学のシラバスの作成要領に従って作成するが、法令、学則等の根拠を理解した上で記載することが重要である
実施	⑤学習指導法		授業レベル	多様な教授法が存在するが、授業の到達目標や内容に応じて、適切な手法を選択できる必要がある ※受講している学生の状況に応じて、改善を行う必要がある
	⑥学修状況の把握		授業レベル	授業期間中に学修状況を把握する（モニタリングの位置づけ）ことであり、授業期間中に改善を行うことが可能となる
点検・評価	⑦授業の見直し		科目レベル	学生の声としてアンケートや成績評価の分析等を活用し、指摘事項や授業全体を改善することである

山口大学のルーブリックを活用した整理

		全学FD	部局FD	新任FD	対象別FD	動画	シラバスガイド	授業参観	その他
全体目標とカリキュラム（プロセス）の把握	①ディプロマ・ポリシー（DP）	○		○	○	○	○		・DP見直し
	②カリキュラム・ポリシー（CP）	○		○	○	○	○		・CP見直し
③学修目標とその評価方法		○		○		○	○		・成績評価等に関するガイドライン ・同一科目における内容等の検討
④授業設計（シラバス作成）		○		○	○	○	○		・シラバスシステムの改訂 ・シラバス点検 ・同一科目における内容等の検討
⑤学習指導法		○ ※ベストティーチング賞 （教育改善FD【前期】）	○	○		○		○	・同一科目における内容等の検討
⑥学修状況の把握			○ ※講師派遣型FD含					○	
⑦授業の見直し			○ ※教育改善FD 【後期】含					○	・各種アンケートの設計、実施 ・成績分布の確認 ・同一科目における内容等の検討

全学FD（①～⑤）

全学FD・SD講演会

- 計画的に推進できるようなFDの実施計画
例． 内部質保証と教学マネジメント（2021年）
山口大学におけるDP・CPの策定方針（2022年）
学修成果の可視化（2022年）

山口大学ベストティーチング賞

- 山口大学における教育の質向上や教材開発に顕著な成果をあげた教員について、その功績を表彰するとともに広く周知することで、本学の教員のさらなる教育活動の改善や意欲向上に資することが目的
 - 候補者となる教員によるFDを実施し、教授法や教材等を共有することで、本学における教育の質向上に資することが期待される
- 教育改善FD研修会【前期】**で発表を行ってもらうことで、教授法等を共有できる
（審査も同日、動画としてアーカイブ化）

新任教員研修（①～④）

山口県内の高等教育機関の教員参加可能

新任教員研修（4月）

「高等教育の動向」

答申や指針、法令など、大学に教員として知っておくべき基礎的な内容をおさえる
※山口県の現状についても解説する

「授業設計と授業方法」

授業とは何か、単位とは何か（時間の考え方等）、実際に授業を設計するうえで知っておくことなどについておさえる

大学教育セミナー（夏）

「15回の授業を設計する」

近年の学修者中心の教育動向を踏まえ、授業の到達目標やカリキュラム全体を意識した授業を設計する基本をおさえる

「90分の授業を設計する」

90分の授業の導入、展開、まとめ、事前事後学習、成績評価の要点をおさえる

【狙い】

- ・「授業」に関する基礎を身につけさせる
- ・将来的な考え方を浸透させる
（FDルーブリックを配布し、研修の前後に回答してもらう）

部局FD (⑦)

FDとIRの連動（実質的な教育改善へ）→ 教育改善FD研修会【後期】

- 各学部・研究科 と 教学マネジメント室と共同で実施
- 教学IRデータを活用したテーマや内容で実施することで、各学部・研究科で教学IRデータの活用を促す
- 2022年度と2023年度は全学的な視点でのデータを合同のFDで活用し、2024年度からは各学部・研究科ごとにFDを実施することでさらなる活用、教育改善への活用を促す環境を目指す

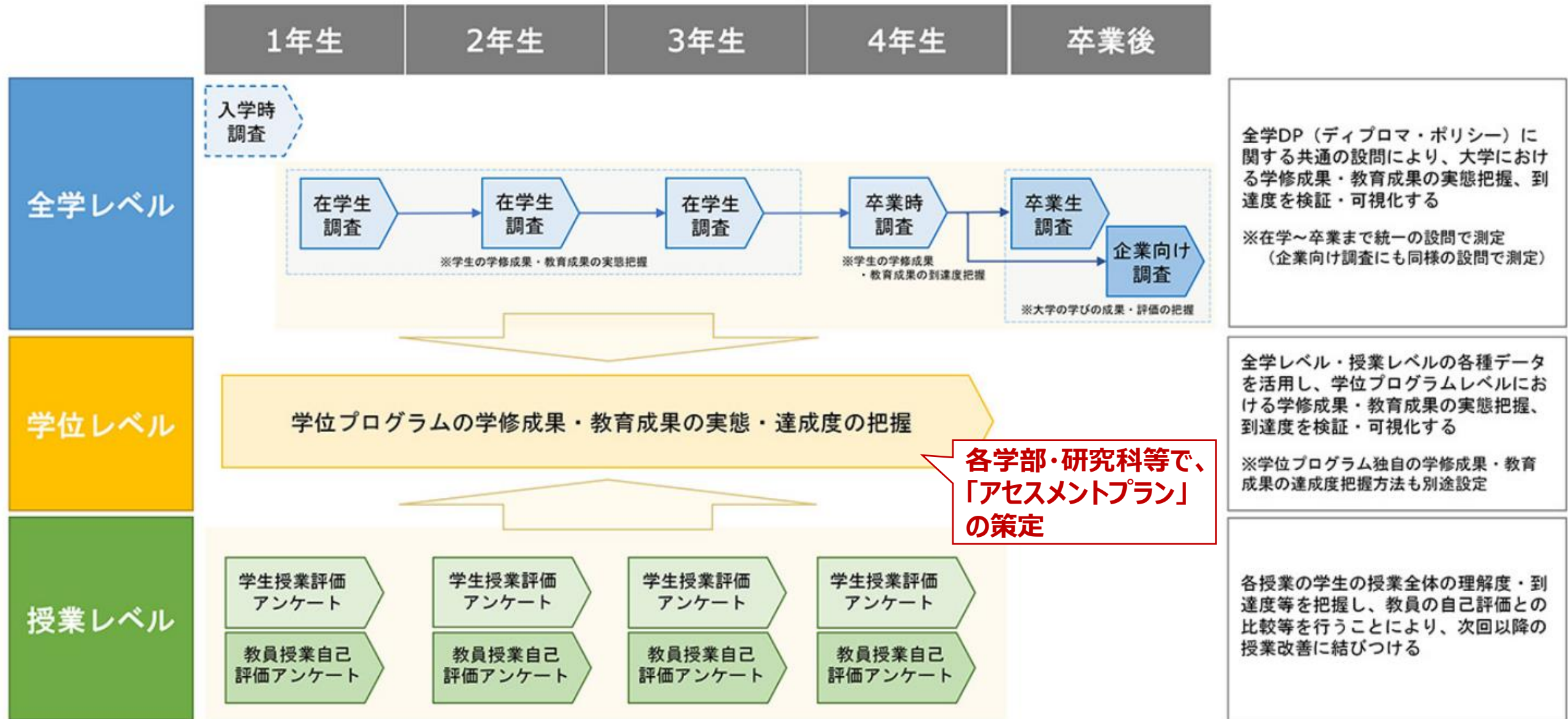
テーマ例. 「教学IR活用のための各種調査（在学生・卒業時・卒業生等）報告」「高等教育の動向」など
各学部・研究科のニーズに対応

【特色】

- 教学IRをFDに活用
- その後のデータ活用方法の提案
- 改善のための他大学の事例紹介
- 教育改善コーディネーターとの連携
- 対話型のFD研修会



各種アンケートの設計、実施（⑦）



動画（①～⑤）

カテゴリー	タイトル	概要
高等教育の基礎	「大学の伝統と歴史」	大学・研究活動・単位制度・日本の大学の起源
	「大学における教育」	教育活動の意義、教員の使命、教育観
	「学生の学習意欲を促す」	学習意欲、動機づけ、自己効力感
日本の大学制度	「大学に関する法令」	教育や大学に関する法令、国立大学の法人化と法令
	「高等教育政策」	高等教育政策、近年の答申、3つのポリシー
	「質保証の仕組み」	大学設置基準の大綱化、自己点検・評価、認証評価
授業設計と 授業方法	「授業設計の基本」	単位制度、授業設計の意義、授業設計の流れ
	「学習目標」	学習目標の意義、学習目標の作成視点、学習目標の3領域
	「学習評価」	学習評価の意義、学習評価の構成要素、評価方法を選ぶ視点
	「授業方法」	授業方法、導入・展開・まとめ、説明・発問・指示
シラバス作成について	「シラバス作成 1」	シラバスの役割、シラバスの項目、授業の目的
	「シラバス作成 2」	授業計画、授業時間外学習、成績評価

シラバスガイド等 (①～④)

シラバス作成ガイドライン

単位の在り方、授業設計（授業時間外学習）などについても明示

＜その他の留意＞

- ・授業でどのようなことを学ぶのかを学生が理解できるように分かりやすく記入
- ・授業計画は、【全体】の概要と【週単位】での詳細を両方を記入
- ・多様な学生に向けた視聴覚教材や授業方法等の情報を記入
(例. 音声を聞く、リスニングあり、グループワーク/ペアワーク/ディスカッションを実施する、パワーポイントを使って発表する等)
- ・授業全体での AL（アクティブラーニング）が占める時間の割合を記入
- ・成績評価法欄の他、ルーブリック等の評価基準を設定している場合の欄を設ける

シラバス画面 (シラバスシステムの改訂)

■ 特定科目区分

■ 対象学生

■ 対象年次

■ ディプロマ・ポリシーに関わる項目

[カリキュラムマップ\(授業科目とDPとの対応関係はこちらから閲覧できます\)](#)

■ 授業の目的と概要

ビッグデータからの情報分析は、情報量が増大している近年において需要が大きくなっており、特にテキストの分析は人間の行動や感情を反映した重要なデータとして注目されている。テキストマイニングとはデータマイニングのうち、テキストデータを対象とする技術である。テキストデータでは、構造化されたデータとは異なり同じ内容が様々な言語表現として表れるため、必要な情

■ 授業計画

【全体】

授業の進め方について、テキストマイニングに関する知識面と、データを用いた演習を行うことで分析に必要なスキル面、実際の演習を通じて分析した結果の発信や発表に必要な態度面の3つを伸ばせるよう、授業前の事前課題、授業中の講義やグループワーク、事後課題などを組み合わせて授業を展開する。

知識面では、産業界での具体的な課題事例や研究テーマから最新のものをいくつか紹介し、それぞれの課題の解決法を考える。

	項目	内容	授業時間外学習	備考
第1回	ガイダンス・テキストマイニングとは	授業の概略とその意義について説明する。その後、テキストマイニングの概念について解説する。	テキストの第1章・第2章を読んでもくる。(学修時間の目安: 2時間以上)	
第9回	共起ネットワーク②	共起ネットワークのさまざまな機能を解説し、実際にロコミデータを用いて実践する。結果についてはグループで討議を行う。	第7章・第8章を読んでもくる。共起ネットワークの解釈をグループワークも踏まえまとめる。(学修時間の目安: 4時間以上)	グループワーク/ディスカッションを実施する

■ 成績評価法

授業の理解度に関する振り返りシート15%、事前事後課題30%、演習課題15%、グループワーク15%、最終レポート25%、で評価する。

■ ルーブリック等の評価基準

その他の例

対象別FD（①・②・④）

：学長、学部長等向けの研修会（2025年度実施予定）

- 教育業界の動き、答申や指針の説明
- 教学マネジメント指針等の答申に基づく、取り組みの説明
- 今後実施していく（力を入れる）内容の説明、スケジュール計画の説明

部局FD（⑥）

：講師派遣型FD

- 各学部・研究科で必要なテーマを実施できるよう各種センター等から講師を派遣
→ 例. 「Moodleコースのデザインと小テストの基礎」など

その他（③～⑤・⑦）

：同一科目における内容等の検討（同一科目名、複数クラス）

- 担当教員が集まり、授業設計、授業内容、成績評価（シラバスの記載含）等について検討を行う

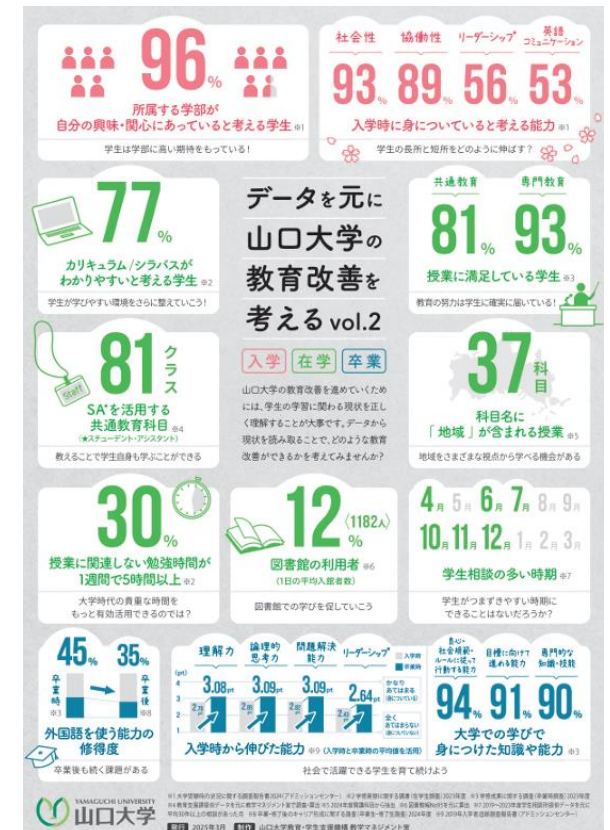
最近力を入れていること

様々な取り組みで、教職員に「データ」や「3ポリシー」に興味を持ってもらう

- アンケートの設問の見直し ※DPの認知度も確認
- IRデータの共有
- IRポスター
- FDとIRの連動（「教育改善FD」【後期】）
- 教育改善コーディネーターの設置、研修

➤データに興味を持ってもらうメリット

- 授業改善にはデータも1つの有効なツール
- DPの達成度などのデータは、カリキュラムや授業の見直し・改善に活用できる
- その他、データはツールとして多くのメリットがある



近畿大学

- 1925年創立。今年100周年
- 創設者世耕弘一の「学びたいものに学ばせたい」「医学部から文学部まで全学部を揃えたい」という理念のもと、15学部49学科11研究科2短大を有する総合大学
- 東大阪、大阪狭山、奈良、和歌山、広島、福岡の6キャンパス



[学生数（大学）]

- 学部：35,875名、大学院1,519名、短期大学340名、通信教育部6,950名

[教職員]

- 職員〔常勤職員〕：5,436名
教員2,204人、事務職員3,232人



[IR・教育支援センター] 教学に関する事項、FD/SDの担当、教学IR等

- **センター長1名（副学長）、専任教員5名（4名は兼務）、職員4名**

近畿大学のルーブリックを活用した整理

		全学FD	部局FD	新任FD	対象別FD	動画	シラバスガイド	授業参観	その他
全体目標とカリキュラム (プロセス)の把握	①ディプロマ・ポリシー (DP)	○		○	○	○	○		
	②カリキュラム・ポリシー (CP)	○		○	○	○	○		
③学修目標とその評価方法		○		○		○	○		
④授業設計 (シラバス作成)				○		○	○		
⑤学習指導法		○		○		○			
⑥学修状況の把握			○	○		○		○	
⑦授業の見直し				○				○	

全学FD（①②③⑤）

全学FD・SD研究集会

- 年2～3回実施
 - 例． 3つのポリシーの達成度評価とその活用について(2025年)
 - IRを活用した自己点検・評価と達成度評価(2024年)
 - 授業時間外学修(2024年)
 - 生成AIと大学教育（2023年）

全学FD・SD研究集会から派生したスピンオフ企画

- 授業時間外学修ワークショップ(2025年)
 - 授業時間外学修を促進事例紹介、促進における課題に関する意見交換
- 生成AI活用ワークショップ(2024年)
 - 生成AI活用事例紹介、意見交換

新任教員研修（①～⑦）

第1回（4月）

「3つのポリシー達成に向けて」 「データで見る近大生の特徴」 「学修サポートデスク」

大学としての教育方針を確認するとともに、各種アンケートのデータや学修サポートデスクの学生による説明や質疑応答をもとに、近畿大学の学生の特徴を知る（東大・阪大・奈良大のみ対面）

第2回（9月）

「授業づくりワークショップ」

授業設計の3要素である目標、内容、評価に関する講義や他学部教員との演習を通じて、コースデザインとクラスデザインの実践的知識を習得する（全員対面）

第3回（2月）

「教育活動の省察」

後期期間中に行った「ピア・レビュー」の結果も踏まえ、ティーチング・ポートフォリオの枠組みに沿って、自身の教育の責任、理念、方法、成果を振り返り、今後の教育活動に関する目標を設定する

【狙い】

- ・「授業」に関する基礎知識の習得と省察の機会確保
- ・大学全体または学部等の教育方針の理解
- ・近畿大学の学生の特徴をデータと学生の声から理解

カリキュラム開発支援セミナー（①②）

- カリキュラム開発に関する基礎知識の習得と、カリキュラムに関する現状の課題発見と見直しを行う機会として、2024年度から開始しました。
- 主な対象は、各学部・研究科の学部長補佐や教務委員長、学生センター職員です。
- 2024年度は「3つのポリシーの意義と策定方法」、「カリキュラムとしての学修成果の評価方法」をテーマに実施しました。2025年度は、各学部・研究科の3つのポリシーとアセスメントプランのピア・レビューを行う予定です。
- ピア・レビューをもとに3つのポリシーとアセスメントプランを各学部・研究科が見直し、2027年度から新ポリシー／プランを運用する見込みです。

【特色】

- 対象をカリキュラム開発のコアとなる教職員に限定
- 知識習得と演習を均等な時間配分とする
- 具体的な3ポリシーとアセスメントプラン見直しにつなげる
- 研修後の実作業も必要に応じて支援
→ 学部等と全学組織の継続的な対話の足掛かりになる

FDを企画するうえで考える要素

講師	外部	内部	
内容	一般論	事例	他大学 自大学
実施方法	一方向	対話型	
	対面	オンライン	
ワークの有無	無し	有り	個人 ペア グループ

他